



浴場も更衣所も清潔第一を心掛けています



弟の喜則さん 兄の良輔さん
とても仲の良い兄弟。家族や長年勤めているスタッフの支えがあってこそ続けられると周りへの感謝を忘れません



昔懐かしいドライヤーと椅子は、部品が手に入らないため、壊れないようにメンテナンスをしています



若い世代には、色鮮やかなロッカーと、えんじ色の下駄箱が新鮮に映えるようで人気です



源泉掛け流しの浴槽
温度調整が難しく、常連客が温度をチェックしてくれるそうです



ほっと一息、銭湯に行こう！

神仏湯温泉

住ノ江1丁目の神仏湯温泉は、創業から90年以上続く小樽でも歴史のある銭湯です。
現在、4代目社長の太田満真さんとそのご子息が運営しており、事業を引き継ぐため経営を学んでいる良輔さんと喜則さん兄弟にお話を伺いました。
神仏湯温泉は、明治の中頃から銭湯を営業していた初代社長の太田忠蔵氏が譲り受け、昭和5年に「住ノ江湯」として開業しました。忠蔵氏は、信仰心がとても厚く、その後「神仏湯」と改名し、現在に至ります。

昭和62年には地下1,300mを掘削、59・2℃の温泉を掘り当て、銭湯には天然温泉100%の掛け流し浴槽があり、その他に超音波浴槽、水風呂、サウナ、家族風呂があります。泉質は低張性弱アルカリ性低温泉で筋肉痛や関節痛、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、不眠性、うつ状態などに効果があると言われています。
42℃〜44℃に設定された源泉浴槽のお湯は、身体の芯まで温め、お肌もスベスベになり、リフレッシュ効果も期待できます。
別棟には家族風呂が10室あり、全

お湯の温度は機械で管理できますが、源泉掛け流しの浴槽はそれができず手動で調整しているため、経験が必要で、
「手伝い始めた当初は、機械の操作を覚えるのが大変でした。父は口数が少なく『背中を見て学べ』という人なので、とても苦労しました」と良輔さん。
喜則さんは「母が口癖のように言う『銭湯は身体を清潔にするところ。綺麗に掃除してお客様をお迎えする』この想いを受け継ぎたい」と話してくれました。
「子どもの頃から番台やお風呂場に入ったり、自然にお客様への挨拶や会話が身に付きました。子どもの頃からお客様に可愛いがつてもらいたい、大人になった今も『大きくなつたね』と頭を撫でられることもあり、自分達の成長を見守ってくれ、ずっと銭湯に通い続けてくれる常連客には、心から感謝しています」
昭和62年頃、市内には40軒以上の銭湯があったそうですが、経営者の高齢化や後継者不在で減り続け、現在、市内では神仏湯を含め5軒となっています。
コロナの影響を乗り越え、客足が戻ったのも束の間、今は原油価格高騰で、燃料費が以前のほぼ倍まで値

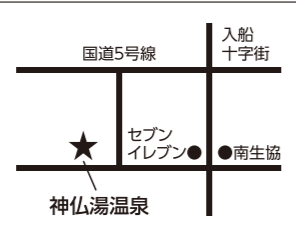
室に温泉が引かれ、定休日なしで営業しています。
銭湯は、一番風呂を待つ方にはじまり、夜は仕事帰りに疲れを癒しに来る方で賑わいます。深夜まで営業していることや南小樽駅やバス停が近いなどのアクセスが良く、駐車場もあるのをお客様からは喜ばれています。
何といっても泉質が良いので札幌や余市など市外から利用するお客様もいるそうです。

老舗銭湯の4代目について
大学卒業後、兄の良輔さんは札幌の印刷会社でプログラマーの仕事をして、喜則さんは札幌の海洋調査会社でダイバーとして働いていましたが、父の満真さんが体調を崩し、良輔さんと喜則さんが実家に戻り、家業を手伝うようになりました。
二人は幼い頃から、元旦以外に定休日がなく、深夜まで働きづめで苦労している両親の姿を見てきました。家事や育児で忙しく家族だけの経営は大変だったというお母様から「兄弟でやってほしい」との願いを受け、良輔さんと喜則さんの二家族で協力しながら家業を引き継いでいきます。

上がりしています。
昨年10月には、公衆浴場入浴料金が改定され、大人料金は30円値上げされました。
「厳しい現状ですが必要としてくれるお客様のため毎日の清掃と施設に手を加えながら快適な銭湯づくりを続けていきたい」と話していました。
家族、兄弟、スタッフで力を合わせて市民の憩いの場、コミュニティの場である銭湯を守り続けてほしいと願っています。



神仏湯温泉
小樽市住ノ江1丁目5番1号 TEL 22-3893
定休日 月曜日(家族風呂は定休日なし)
■銭湯 12:30~25:00
■家族風呂 13:00~24:00(最終受付)



◆ 料金 ◆	
銭湯	大人(中学生以上)480円、小学生140円、未就学児70円
家族風呂	大人(中学生以上)800円、大人(2人目以降)700円、小学生100円 未就学児無料